

大阪市イノベーション促進評議会 平成30年度第1回 会議要旨

1 日時

平成30年12月14日（金曜日）9時30分から11時

2 場所

大阪イノベーションハブ（OIH）

3 出席者

正城委員長、東委員、竹村委員、田中委員

事務局（馬越 大阪市経済戦略局イノベーション担当部長、柳内 同局イノベーション担当課長、田原 同局イノベーション担当課長代理、他）

4 議題

- (1) 平成30年度の大阪イノベーションハブの活動状況について
- (2) 今後の取組みについて
- (3) その他

5 会議要旨

[主な発言内容]

- ・イノベーションのプラットフォームの創出は重要。今までそういう考え方は無かった。まずはイノベーションが起こせるようなプラットフォームをつくるが、それは最終目的ではないというところも凄く重要。
- ・最終的な目的が、大阪、関西圏、日本が継続的に成長する状態に持っていくことであれば、次のフェーズでは、今実施している非常に良いポイントをつなぐ必要がある。これまでは、企業支援でくっつけると考える時代だったが、今は顧客でつないでいく。オープンイノベーション、デザイン思考などが出てきているが、これらは「最終顧客の満足度をいかに上げるか」という手法である。この事業でも、「誰が顧客か？」の観点が必要。スタートアップにフォーカスしないといけない。

- ・コミュニティ形成までの次の段階として、プロジェクト創出・ショーケースとされているところのマネージメント、デザインが極めて重要。海外だとテクノロジーを試すところと、市民を巻き込むところとは別の組織を作っている。市の他の事業も巻き込めれば、すそ野が広がる。
- ・大きなビジョンをHack Osakaを通じて描くと面白い。大阪ならではの過去やストーリーがあれば、それを基盤に人材の厚みを増やしていく。Hack Osakaをハブにして、ローカル人材の興味を喚起する・育ててる・盛り上げる・連携するようなストーリーが凄く大事だと思う。市民の方が誇りに思っ、関わるようなエコシステムづくりをやっていくと、よりリッチなスタートアップの土壌、カルチャーが出てくる。「このまちに何故いるのか」「何故そこでやっているのか、」という話は海外にも通じる。
- ・この事業はインターネットに似ている。電話のネットワークは、堅牢で巨大なものをつくり上げ集約するが、インターネットはハブをつないでいく。インターネット的な要素を念頭に置くと、この事業は凄く腹落ち感がある。中継をすること、リレーする・ルーティングすること自体が価値である。
- ・OIHはスタートアップや大人向けのフォーカスで来ているけれども、これからイノベーションを起こしていくのは若者。次のステップとして、より若年層にどうやってイノベーションの楽しさを見せていくか、参画を促すのは検討課題。
- ・アウトプットやアウトカムが、多過ぎる気がする。キーパフォーマンスが何かを厳選していただいても良い。KPIではなくてOKR的なものになっても良い。参加者の人にアンケートをとって、顧客満足度で測っても良い。
- ・ダイバーシティも必須。大阪は色々な人がいる面白さがある。女性とか国籍とかも含めた多様な人々がここで起業したいと思うようなハブになっていく。多様性がリッチなほどイノベーションも生まれやすい。